

いわみざわ市の教育

特集 岩見沢市教育振興表彰式を開催しました

主な内容 第73回市民の文化祭・第66回子ども文化祭

DXハイスクールの取組みについて
～緑陵から、未来を創るデジタル人材へ～

自ら学び続ける生徒の育成を目指して
ー研究開発学校制度を活用した緑中学校の取組みー
教育長コラム『岩見沢型ピアサポート』とは

子ども部門教育長賞「多様多彩」
吉成夏槻さん

一般部門市長賞「I'm(not)here.」
安部聖哉さん

【写真の紹介】

9月27日(土)岩見沢市民会館・文化センターにて「第2回いわみざわ絵画大賞展」の授賞式が開催されました。写真は、一般部門・子ども部門で対象に輝いた作品になります。絵画展では、市内外から164点(一般部門63点、子ども部門101点)の応募があり、多彩な作品が集まりました。

岩見沢市教育委員会 Facebook

市内の教育に関する行事の情報を発信していますので、ぜひ「いいね！」してください！

<https://www.facebook.com/edu.iwamizawa>



令和7年度 岩見沢市教育振興表彰式 を開催しました

岩見沢市教育振興表彰式



令和7年11月10日(月)午前11時より、岩見沢平安閣にて岩見沢市教育振興表彰式が執り行われ、受章者のお二方には表彰状と記念品が教育長より贈呈されました。

また、松野市長よりお祝いの言葉があり、受章者を代表して吉永 美喜男 様より謝辞が述べられました。

表彰式の様子はこちら！

https://www.city.iwamizawa.hokkaido.jp/soshiki/gakkokyoikuka/kyoiku_iinkai/4/3/2/16355.html



岩見沢市教育振興表彰とは？

岩見沢市の教育振興のため、特に功績のあった市民または市民であった方に対してその功労を表彰するものです。

個人が成したことだけではなく、教育に携わる団体に所属し、その団体の育成・発展に貢献されたことなども表彰の対象となります。

教育関係各種団体や学校等が候補者を推薦し、選考を経て決定します。

今年度は以下の方々が受賞されました。



受章者のご紹介



体育功労

よしなが

吉永

みきお

美喜男 氏

岩見沢市バスケットボール連盟の役員として、永年にわたり組織の運営・発展に寄与されました。

また、南空知地区バスケットボール協会と連携し、市内における青少年のバスケットボールの技術向上及び振興に大いに尽力されました。



社会教育功労

いまい

今井

みちこ

美智子 氏

旧北村や岩見沢市の社会教育委員として、永年にわたり本市の社会教育行政の推進に貢献され、更には同委員の会議副議長として会議運営に尽力されました。

また、岩見沢市社会教育中期計画の策定に携わるなど、教育行政の発展に寄与されました。

【問合せ先】 学校教育課総務係 ☎ 0126-35-5121

岩見沢市で文化と芸術を楽しもう！

岩見沢 文化の祭典

今年も盛大に開催しました！

一般・文化団体

第73回 市民の文化祭

文化の輪を広げよう



オープニングセレモニー



子ども茶席



展示発表



舞台発表

まなみーる(岩見沢市民会館・文化センター)にて、第73回市民の文化祭を開催しました。市民の文化祭は、市民や市内の文化団体が日頃の活動で創作した作品の展示や舞台芸術の発表を通して市民の皆さんに芸術文化に広く触れてもらい、地域文化の振興に繋げていく場として毎年10月に開催しています。

● 舞台発表(10月25日～26日)

バラエティ(ダンス等)、民謡・箏曲、カラオケ、詩吟、日舞を大ホール・中ホールで披露しました。

● 展示発表(10月25日～26日)

絵画、華道、書道、写真、菊花などを展示し、多くの方が作品鑑賞を楽しめました。

そのほか、文芸発表やお茶席、交響詩岩見沢の発表・ヨガ体験の特別アトラクションが行われ、2日間で延べ3,600人を超える方々にご来場いただきました。

今後も、本行事を通して岩見沢市全体の文化活動の発展に繋がっていくことを期待しています！

小・中学生

第66回 子ども文化祭

みどりのまちにひろがる文化
～心ゆたかにはばたく子ども～

まなみーる(岩見沢市民会館・文化センター)にて、第66回子ども文化祭を開催しました。子ども文化祭は、市内児童生徒が各分野での日頃の成果を発表する場として、毎年10月に開催しています。

今後も本行事を通じ、子どもたちの活躍の場がさらに広がることを期待しています！

● 英語暗唱大会(10月1日)

16名の生徒が登壇し、表現力豊かに学習の成果を披露しました。

● 展示発表会(10月25日～26日)

市民の文化祭と合同開催され、735点の作品を展示。延べ3,600人を超える来場者で賑わいました。

● 音楽発表会(10月27日～28日)

1,500人を超える児童生徒が参加しました。フィナーレの会場全体での合唱は圧巻で、来場者からは大きな拍手が送られました。



英語暗唱大会



展示発表会



音楽発表会

DXハイスクールの取組みについて

～緑陵から、未来を創るデジタル人材へ～



デジタル教育環境を強化し、実践的な専門スキルを磨きます。

この度、本校は文部科学省が推進する「DXハイスクール」の採択を受けました。

この支援を最大限に活用し、第一線で活躍する専門家による講座の実施や、最新機材を導入した3DCG・映像制作等の授業を実施します。

また、生徒一人ひとりの適性を分析しながら、創造性と実践力を兼ね備えたデジタル人材を育成します。



プロ直伝！ デジタル専門講座

第一線のクリエイターから学ぶ

●デジタルイラスト講座

有田満弘氏よりデジタルイラスト制作の講演及び生徒作品の添削

●モーショングラフィック講座

多田まどか氏、いがらしなおみ氏より動画編集に関する講演

●アートディレクション講座

今村知記氏よりwebサイトの映像、空間のデザイン等の制作に関する講演

●デジタル作画講座

中山貴博氏、いがらしなおみ氏よりデジタルイラスト・アニメーション制作の講演

●ネットワークセキュリティ講座

大阪府大東市教育委員会 山本和人氏よりネット関連トラブルやネット犯罪に関する講演



最新デジタル機器を整備

プロ仕様の環境を実現

●3DCG関連機材

高性能PC/VRゴーグル/3Dプリンタ/液晶ペンタブレット

●映像・撮影機材

デジタル4Kビデオカメラ/360度カメラ

●プレゼンテーション

大型ディスプレイ/Webカメラ/プロジェクター/デジタルサイネージ



能力適正検査 「GPS-Academic」

自分の「強み」を把握

ベネッセコーポレーションの「GPS-Academic」を導入実施。

- 個々の「強み」や「特徴」を可視化
- 「問題発見・解決する力」を測定
- 得意な能力や課題を検証



デジタル専門講座の様子

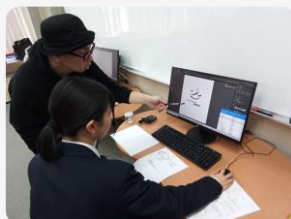
ソフトウェアの技術面で深く学ぶことができたほか、プロとしてどのような視点で取り組んでいるか学ぶことが出来た。
(講座終了後のアンケートより)



デジタルイラスト講座



モーショングラフィック講座



アートディレクション講座



デジタル作画講座



自ら学び続ける生徒の育成を目指して

- 研究開発学校制度を活用した緑中学校の取組み -

■ 北海道唯一の「研究開発学校」

岩見沢市立緑中学校は、令和7年度より文部科学省の「研究開発学校」に北海道で唯一指定を受けました。これからの時代を生きる生徒たちに必要な力を育むとともに、学校課題を解決するための様々な取組みを進めています。

■ 「研究開発学校」とは

社会の変化・発展によって生じる学校教育に対する多様な課題・要請に対応するため、学習指導要領によらない特別の教育課程を用いた研究を行おうとする学校を「研究開発学校」として指定し、その実証をもとに新しい教育課程や指導方法の開発を行う制度です。文部科学省が昭和51年に制定した制度で、令和7年度は全国99校が指定を受け、各地の実態に合わせた取組みを行っています。



■ 緑中学校の主な取組み

🕒 新日課の設定 「45分授業 午前5時間制」

1コマの授業時間を50分から45分へ短縮し、午前中に5時間目の授業まで行う新日課を設定しました。これにより、授業内の生徒の集中力維持に繋がるほか、午後の時間に従来の日課にはなかった余白時間が生み出され、生徒一人ひとりが自身の興味や学習上の課題に応じて柔軟な活動を行う時間を設けることが出来ました。

昨年度までの日課

生徒登校	8:20
朝読書	8:20~8:30
朝学活	8:30~8:35
1校時	8:40~9:30
2校時	9:40~10:30
3校時	10:40~11:30
4校時	11:40~12:30
給食	12:30~13:00
昼休み	13:00~13:20
5校時	13:20~14:10
6校時	14:20~15:10
短学活	15:15~15:25
清掃	15:25~15:40
生徒下校	15:40



今年度からの日課

生徒登校	8:15
朝学活	8:15~8:25
1校時	8:25~9:10
2校時	9:20~10:05
3校時	10:10~10:55
4校時	11:05~11:50
5校時	11:55~12:40
給食	12:40~13:10
昼休み	13:10~13:30
6校時	13:30~14:15
エデュタイム	14:15~14:55
清掃	14:55~15:05
短学活	15:05~15:20
生徒下校	15:20



生み出された時間の有効的な活用

新日課により生み出された時間を、自身で課題を決め学習を行う時間(エデュタイム)、生徒の自治活動の時間等に設定し、学力の定着や主体性の育成に取り組んでいます。

また、水曜日は5時間目の授業が終わると完全下校となり、生徒が校外での活動時間に充てられるよう設定しているほか、教職員の会議や研修の時間を確保出来るようになり、学校全体の資質向上が図られています。



授業時間の短縮に伴う授業改善

「この単元では何を身に付けるのか」という目的を明確にして、生徒があらかじめ見通しを持って取り組めるよう授業を展開する、ICT機器を活用して効率的に授業を行うなど、授業時間が短縮されても密度の濃い授業が行われるように指導方法の工夫が施されています。



緑中学校では、本制度を活用した研究を進め、生徒・保護者にとって「通う・通わせる価値」「学ぶ価値」のある、創造的な学校づくりをこれからも推進していきます。

【問合せ先】 指導室 ☎ 0126-35-5127

『岩見沢型ピアサポート』とは

教育長 吉永 洋

◆ 授業が始まると、教室の電子黒板に長縄跳びをしている子どもたちのイラスト（下のイラスト）が大きく映し出されました。



「ねえ、この子はどんなことを思ってるんだろう？」
 そう言って、先生はイラストの中で矢印が指している子の気持ちを子どもたちに尋ねました。
 「跳びたくないな、って思ってるんじゃないかな」
 一番前の席に座っている子が、すぐさま答えました。
 「長縄跳びに失敗して、恥ずかしがっているんだと思う。ほら、足元に長縄があるもの」
 後ろの方でイラストをじっと見ていた女の子が答えました。それを聞いていたもう一人の子が、「隣の子に何か言われて、嫌がっているんじゃないかな」とつぶやきます。
 「嫌がっているんじゃなくて、失敗を指摘されたから責任を感じてるんだと思うな」
 「そうかな。あの子は指摘してるんじゃなくて、ドンマイって元気づけているんだよ」
 「もう一回跳ぼうよってサインしている子がいるから、これ以上やりたくないなあって困ってるんだと思う」
 矢印が示す子の気持ちについて、クラスの子どもたちからいろんな考えが出されます。
 先生は一通り子どもたちの感じ方を聞いた後、このように尋ねました。
 「じゃあ、自分だったら、この子にどんな言葉をかける？」

◆ 2019年末から猛威を振るった新型コロナウイルス感染症は2020年に緊急事態宣言が出され、2023年の5月に感染症法上の5類に移行しました。3年ほどコロナ禍が続いたことになります。

この間、学校では集団で行動することが制限され、大声で話すことが憚られました。一日中マスクをし、互いの表情が読み取れない生活が続いたのです。とりわけ、幼児期後期（3歳～6歳）は子ども同士で遊んだりしゃいだりしながら社会性を養う時期ですが、その機会が失われてしまったような気がします。

また、思春期においては友人関係やグループを通して社会的アイデンティティが形成される時期になるものの、人とつながる行動が制約されました。

福岡臨床心理オフィスでは「コロナ禍を経て育ってきた子どもたちはじっと席に座って授業を受けられない、集団行動がとれないなどの行動が目立ってきた」とも指摘しています。

◆ 学校は子どもたちが成長する場であり、楽しく、そして誰もが行きたくなるものにしなければなりません。

そのためには、「何を言っても大丈夫」「困ったときはお互い様」「異なる考えも受け入れてくれる」といった心理的安全性が不可欠になります。

この心理的安全性の醸成を目指して、岩見沢では昨年からの市内の全小中学校で『岩見沢型ピアサポート』という教育活動を取り入れました。

「ピア」とは仲間という意味であり、「ピアサポート」とは仲間を思いやったり、支え合ったりする活動です。

安心して学び合い、高め合うことのできる人間関係づくり。それが『岩見沢型ピアサポート』です。冒頭に書いたものは、そのピアサポートプログラムを行っている授業の1シーンになります。

◆ 『岩見沢型ピアサポート』では、次のような体験プログラムを行っています。

一つは前述した授業のように、自分や相手の感情を察知し、感情の言語化・想像力の育成を図るプログラムです。もう一つは、様々な学習において、励ましたり助け合ったりする活動を取り入れたペアやグループによる協同学習です。さらには、望ましい行動があれば、それを褒めたりするポジティブなアプローチの活動も行います。同時に、学校は「失敗してもいいところ」「間違ってもいいところ」にすることです。

つまり『岩見沢型ピアサポート』とは、子どもが他者への共感性を培ったり、思いやりを行動で示したりする方法を学び、「支え合い、助け合う」風土を醸成する取り組みであるともいえます。

もちろん、一朝一夕にそのような風土ができるものではありません。『岩見沢型ピアサポート』を地道に、そして継続的に実践することで、子どもたちに他者への理解や自己有用感を育てていきたいと考えています。

どんなに時代が変化しようとも、やはり人は「人の中で学び、人の中で成長していくもの」なのですから。